

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871900296		
法人名	社会福祉法人 博慈会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 虹の家 ユニット名(1号館)		
所在地	茨城県牛久市女化町252-6		
自己評価作成日	平成30年5月5日	評価結果市町村受理日	平成30年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0871900296-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成30年6月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の思い(今されていること、思い出)を大事にしなが、ご利用者と職員と一緒に楽しめるような生活の支援をしています。ご利用者の意欲や出来ることに合わせて作業と一緒にしていただき、「ありがとう」と感謝を伝えられるようにしています。
 季節の行事や風習(初詣、節分、ひな祭り、花見、夏祭り、十五夜、お彼岸、餅つきなど)を大事にし、果物狩りや紅葉狩り、野菜づくりなど季節感を味わえるようにしています。
 近所への買い物(週1回くらい)、幼稚園との交流(年2回)など地域との関わりを持てるように努めています。
 ご利用者の重度化に対して、食事形態の工夫や介護・看取りに対する体制づくりをすすめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は職員が働き易い何でも話せる風通しの良い職場作りを力を入れており、日頃からもコミュニケーションを図るようにしている。利用者が家庭的な雰囲気生活できるよう行動にも制限をもたず、その人らしく過ごせるよう、職員は日々業務に取り組んでいる。敷地内にある特別養護老人ホームにボランティアコーディネーターがおり、行事やボランティアの受け入れる体制が整っており、積極的に受け入れを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で意見を出し合い、共有しやすい理念を改めて作った。 職員の机の前や玄関に掲示し、職員も家族も目に見ることができる。常に意識でき、実践につとめている。	管理者と職員で話し合って分かり易い理念を作成し、玄関と事務所に掲示している。ケース検討の中で、理念に沿ったケアになっているか、管理者が確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買物途中で合う方と挨拶を交わすなどして交流や地域とのつながりに励んでいる。 運営推進会議で地域の催しの情報を得たり、幼稚園との交流を継続できるようにしている。	区長が広報誌を届けてくれ、地域の祭りにも招待されて利用者と職員で参加している。月2回ほど、特別養護老人ホームと合同で、楽器演奏や踊りのボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティアの受入れ、運営推進会議などを通して、認知症の方の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束廃止の取組状況や事故防止に対する取り組み状況、感染症対策の状況、献立等調理に関する状況等を報告し、ご意見を頂いた。	参加している委員から、参加できそうな地域の行事を聴いている。防災訓練に関する助言などももらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でサービスの取組状況等を伝えながら、個別のケースに関しても、高齢福祉課や社会福祉課、社会福祉協議会等とやり取りを行い、ご利用者の生活を支援している。	市担当者が運営推進会議に参加している他、更新申請時や法改正による職員配置の相談などに直接窓口に向いて相談、助言をもらうなど連携し、協力関係を築いている。生活保護受給利用者についても相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に身体拘束廃止の宣言を提示している。 職員全員が身体拘束を行わない意味を理解している。福祉機器を利用したり、それを行わずに事故を防ぐ工夫を考え実践している。行方不明防止の為、玄関は施錠しているが、要望があれば職員付添の元外出したり、戸外の空気を感じられるよう工夫している。	法人の身体拘束を行わない方針を掲示している。事故やヒヤリハット事例が起きた時に、リスクマネジメントのマニュアルを基に検討会議を行い、身体拘束についても話あっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員室に虐待防止に関するポスターを掲示し、常に意識できるように努めている。ご利用者に対する不満や困難なケアについて、職員個人が抱え込まないよう、チームで話し合いができるよう努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所時やご家族の状況の変化等から、社会福祉協議会と連携し、それらを活用してきた。ご利用者と後見人や担当者との関係がうまくいくように職員が連絡や調整を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書をもって説明を行い、納得を頂けるよう努め、同意を頂いている。特に、料金や医療、重度化した場合の対応などは慎重にご説明し、安心して頂けるよう努めている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には近況報告と共に、ご要望等が伺っている。また、運営推進会議への参加を呼びかけている。ご利用者が介護相談員に気持ちを話したりしている場面もある。	重要事項説明書に、事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。面会時、管理者や職員から声掛けするだけでなく、玄関の外に意見箱を設置して、誰にもみられず意見を書いて入れられるようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から業務上の課題について話し合ったり、会議や申し送りの場でも検討を重ね、職員の意見をできるだけ反映できるよう努めている。	管理者は、日頃から話しやすい雰囲気作りに努めているとともに、職員会議時に意見を聴くようにしている。職員からでた意見に対しては迅速に対応している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための金銭的支援やシフトの調整、育児中のシフト調整、研修、人事考課制度等、職員が働きやすく、向上心を持って働けるよう努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人についた職員は、徐々に無理なく業務や技術を学べるよう指導してくれている。 1人1人の力量や関心などに合わせて、内外の研修を受けられるよう勤めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで交流する機会はあるが、それ以上の取り組みは行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に出来るだけご利用者の情報を把握し、少しずつ関係を深めながら、本人の思いを聞けるようにしている。知り得た情報は記録し、職員全員が把握できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階や、入所時にこれまでの介護の様子や不安に思っていることなどをお聞きし、安心して私共に任せられるよう努めている。 職員から自己紹介をして、話しやすい関係を築けるよう努めてくれている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ケアマネージャー等から情報を収集すると共に、アセスメントを行い、必要なケアを検討し、スムーズに入居できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の尊厳を保持し、出来ること、出来ないことを見極め、食事作りや掃除などを一緒に行い、共に生活している者同士として関係を深め、楽しく暮らせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に衣替えのお願いや行事への参加を呼びかけている。毎月のお便りやその都度の連絡で、ご利用者のお気持ちや変化の様子を伝え、面会や受診の付き添いをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来た時、お茶を出したり居心地の良く感じられるよう努めたり、写真を撮ったりしている。電話や手紙の支援、自宅への送迎、お墓参りの支援も出来る限りしている。	職員と自宅へ行ったり、家族等と外食や墓参りに出かけるなどしている。友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるよう配慮し、馴染みの関係が途切れないような支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立してしまうご利用者が居れば、どうすれば他のご利用者と関わり合うことが出来るか考え、相性や関係を把握し、座席の調整をしたり、一緒にいる作業やレクを提供したりして努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居されるなどする時には、これまでのご利用者の習慣や好み、ケアの工夫なども伝え、退居後でも相談があれば情報の提供など支援している。ご利用者に面会に行ったり、町で合えば声を掛け調子を尋ねたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを良く聴くことに重点を置いて会話から引き出し、生活歴や趣向、ご家族の意向等で補完しながら、思いを汲み取れるよう努めている。	管理者と職員は、利用者との日常の関わりの中から一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。新たに把握した内容は「1週間ケースファイル」「業務連絡帳」に記載するとともにユニット会議でも周知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にケアマネやご家族からの情報を元に、普段の会話の中で、回想法を用い、小さい頃のことや仕事のこと、経験してきたことなど本人からも聞き出し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや共に家事活動などをする中で、日々の状況の変化に気がつくことが出来、気づいたことは記録し、職員で情報の共有ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題によっては主治医などの専門的な意見を仰ぎ、家族、本人の意向を踏まえ、計画作成担当者が中心となって、職員会議や日々の話し合いの中で現状に即したサービスを提供できるように努めている。	本人や家族等の意向を聴き、医療関係者の意見を取り入れて、計画作成担当者が計画を立てている。6ヶ月ごとにモニタリングを行い、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の発言や気持ちをわかりやすくまとめ記録したり、取り組みの結果、気づき等をケース記録に記入し、出勤時には必ず目を通すようにしており、情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅への送迎、希望による買い物支援、緊急時の病院受診など出来る限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院での散髪、神社の境内を借りての花見、幼稚園児との交流、近所の商店での買い物など地域と関わりながら生活が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族での受診援助が困難な場合には、同意を頂いた上で、協力医院に主治医を変更して頂き受診支援をしている。重度化などで通院が困難になった場合には往診専門の医療機関と連携し適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診が可能なことを説明している。協力医療機関の医師による訪問診療が月1回ある。医師との情報のやり取りは、職員が付き添う場合には口頭で、家族等が付き添う場合には文書を医師に渡してもらうようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している訪問看護ステーション、併設施設の看護師に業務日誌や受診申し送り書を渡して、日々の様子を伝えている。24時間連絡体制をとっており、いつでも指示を仰ぐ事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時には、生活や介護の状況を伝えるようにしている。入院中も、随時面会に行き、ご利用者の状態や治療の具合の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、事業所の出来る事や方針を説明し、重度化した場合等のご家族の意向を伺っている。状況に合わせて、ご家族、主治医、看護師等と協力し、今出来る事を行いながら、最期を穏やかに迎える為にチームで支援している。	重度化意見伺い書、延命治療意見伺い書に、入所時サインをもらっている。看取りを行う事業所であり、状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な同意を行っている。年1回内部研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心配蘇生法やAEDの使用法、観察のポイントなどの施設内研修を年1回行っている。救急車の手配方法など、緊急時のマニュアルを職員室の見やすい場所に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に消防署立会いのもと、避難訓練を行っている。	夜間想定を含む避難訓練を年2回行っているが、住民の参加を得るまでには至っていない。緊急時の連絡網を作成している。訓練後は反省会を行い課題について話し合いを行っている。災害に備えた備蓄品を保管しているが、一覧表を作成して管理するまでには至っていない。	住民の参加が得られるよう、方法や開催時期等を工夫し、参加できる体制が整うことを期待する。一覧表についても備蓄内容が決まり、作成することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排尿や排便、失禁を記号化して利用者には気づかれないようにしている。トイレの外で待つ、異性の入浴介助を嫌う利用者にはとの外から声をかけ様子を伺い見守る、失敗を責めない、「ありがとう」とよく声をかけるなど行っている。	個人情報や肖像権に関する同意書が整備されている。人権尊重や守秘義務について規程等を定め、話し合いを行っているが、研修を行うまでには至っていない。	プライバシーに関する研修を行い、職員の理解が深まることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が何か話したい時は、話の腰を折らずに傾聴する、「～しましょうか？、～していただけますか？」と自己決定を促す言葉をかける、判断が出来ない時は選択肢を減らす、などの働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出るのが好きな方か、内の中が好きな方かなのかなどご利用者の好みを把握している。休養や買い物など希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服をご利用者に選んでいただく、時候にあわせた衣服を選択する、美容室を予約する、新しい服をご家族にお願いしたり、購入するなど配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「切る・盛り付ける・洗う・拭く」など一人一人の出来る事にあわせ役割分担をし、食事作りから後片付けまで関わって頂けるよう支援している。誕生日には希望の献立を用意したり、外食をしている。旬の食材、行事食、ピクニックなどを楽しむ。	職員が1週間分の献立を考えて、市内の商店に食材を依頼している。年3回の外食や季節毎の行事食で食事が楽しめるよう工夫をしている。利用者は能力に応じた手伝いを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	麦茶ゼリーやイオンドリンクなど水分を摂って頂き易いよう支援し、摂取量を記録して把握している。バランスの良い献立に気を配り、嫌いなものは代替したり、不調時にはお粥にしたり、高カロリー食を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後のみ口腔ケアを行っている。磨き残しの確認や介助、入れ歯の洗浄など。歯科衛生士の指導を受けながら技術の向上に努めている。ターミナルケア時は特に口腔内の状態に配慮したケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をもとに誘導のパターンを決める、いきたい時のサインをよく観察して誘導するなど、出来るだけトイレでの排泄が出来るように動めている。自分で紙で拭いていただいたり、手を洗うなどの支援をしている。	排泄チェック表や個人記録から利用者それぞれの排泄パターンを把握し、さりげない声かけをしてトイレ誘導している。排泄の自立支援を行い、オムツから紙パンツに移行した利用者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜やきのこ類を多く取り入れる、ファイバーを使う、排便や便秘に合わせ下剤の調整、水分をよく摂っていただくなど、トイレでの排便すすめる等の支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は15:00～17:30。2日に1回入浴できるように支援している。自立の方は毎日入浴している方もいる。異性が気になる人、一人で入りたい人、ゆっくり入りたい人など好みやペースに配慮している。菖蒲湯やゆず湯など季節感にも配慮	シャワーキャリーやリフト浴等の設備が整っている。基本は週3回から4回、午後からとなっており、利用者の希望に合わせた時間で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や室温、布団の調整、日中の活動(散歩やレク等)への配慮している。眠れない方へ傾聴したり、一緒にテレビを見たり、添い寝したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の内容を把握している。ケース記録ですぐに再確認できるようにしている。薬が変わった時には副作用に注意している。きちんと服薬できたか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、家事、散歩、買い物、好きな話題など一人一人の楽しみ事を把握している。季節ごとに咲く身近な植物を通じて昔の思い出を話してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には散歩したり、定期(火曜・金曜)及び希望に合わせて買い物に出たりしている。ドライブやピクニック、外出会を実施している。ご家族と外出される時には衣服に配慮したり、トイレの心配がある場合には着替え等を用意している。	買い物に出かけるほか、月1回は気分転換や季節の変化を感じてもらうため、ボランティアや家族等の協力を得ながら、様々な場所へ外出している。利用者の希望で、カッパ祭りや幼稚園児とジャガイモ堀りに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望があるときは、紛失する可能性があることをご家族に納得頂き、自己管理を支援している。なくなれば一緒に探す、預かり金から補充するなど、自己管理の大切さを理解している。自由に使えるお金があることを説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた時や希望時に電話を取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りや行事の写真をホールに飾っている。状況にあわせてテレビの音量の調整している。。ソファや椅子を配置しつづるスペースを作っている。	居間兼食堂の壁に行事などの写真や利用者の作品(習字、手作り作品)が掲示してある。窓側に大きめのソファがあり、利用者同士で会話等を楽しんでいる。天窓があり、明るく広々としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファや椅子を配置している。食事の時の席はある程度決まっているが、自由に座ってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒や仏壇、テレビなどご家族の協力を得て配置していただいている。居室に家族の写真を貼ったり、思い出の品を飾ったりしている。	部屋の入り口には暖簾を掛け、プライバシー保護や目印になっている。自宅で使用していたもの等を持ち込んでもらえるように家族等に説明しており、寝具や筆筒、椅子、テレビ、家族の写真など、それぞれに馴染みの物を持ち込んで、居心地の良い部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも通れるスペースの確保、手すりの配置、トイレ等のわかりやすい表示、居室の暖簾、ガラス戸にぶつからないようステッカーを貼るなど分かりやすく、安全面に配慮している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム虹の家

作成日 平成 30年 8月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	プライバシー保護に関する考えを深める定期的な機会（研修）がない	定期的に研修を設け、日頃からよりプライバシーの保護を意識してケアに取り組む	・年1回、プライバシー保護に関する研修日を設ける。（毎年11月）	3ヶ月
2	35	避難訓練に近隣住民の方々の参加に至っていない	避難訓練に近隣住民の方々の参加をえる	・部課長会議にて住民参加を図る具体的な取り組み方法について検討する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。